教育研究推進計画

教育目標	『めあて（夢）をもち　進んで　やりぬく　児童の育成』 【めざす児童像】　（１）進んで学ぶ児童　〈主体性〉 （児童につけたい資質能力）（２）思いやりのある児童　〈伝えあう力〉 （３）健康でたくましい児童〈やりぬく力〉
研究主題	読解力を高める授業の創造 ～教科書が読める、より質の高い複式授業スタイルの確立をとおして～
主題設定の理由	君田は自然環境に恵まれ、地域の「ひと・もの・こと」が充実している地域であり、学校への地域の方からの協力や支援は惜しみないものがある。少子・高齢化が進む中、10 年後・20 年後の君田を力強く担っていく、たくましい児童の育成が必要である。 君田中学校区では、小中一貫教育推進として、長年にわたり読書活動の推進に取り組んできた。そして、学習・生活習慣の確立に向けた「君田スタンダード」を推進し、家庭学習週間を実施したり、小中合同による研修を充実させたりするなど、中学校卒業時の姿をイメージした小中連携を図っている。 本校では、昨年度、読解力向上事業の指定を受け、教科学習の主たる教材である教科書を含む多様なテキスト及びグラフや図表等の各種資料を適切に読み取る力を育成することを目指して研究を進めてきた。また、完全複式学級となり、複式授業スタイルの確立を目指して授業改善に取組んだ。取組を進める中で、児童の学習に対する意欲や個々の自己有用感の伸びが少しずつ見られるようになってきた。その結果、三次市学力到達度検査の結果は、算数科では、評定１の児童が減少しており、今年度取り組んだ問題文を正しく読み取る指導の成果が表れた。また、学習リーダーを中心として児童が主体的に学習する複式授業スタイルが確立してきている。 しかし、学力については個人差も大きく、特に高学年で言葉に関する基礎的な知識・技能や文章を正しく読み取る力、読解力にも課題がある。そのため、低学年から言葉に関する基礎的な知識・技能の向上のための指導を充実する必要がある。 これらのことから、本年度は算数科を中心に、ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体化した、児童の主体性の向上を目指したより質の高い複式授業スタイルを確立するとともに、読解力向上の取組を他教科へも広げながら、「読解力を高める授業の創造　～教科書が読める、より質の高い複式授業スタイルの確立をとおして～」を目指すこととし、本研究主題を設定した。
研究仮説	○ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体化した複式授業づくりを行えば、児童の主体性が向上し、児童の理解力が育成できるであろう。 ○児童の読解力のつまずきを把握し授業改善を行えば、児童の読解力が向上し、児童の理解力が育成できるであろう。
研究推進の方法・方策	（１）主体的に学ぶ力を育む授業づくり（子供が主役の授業） ①　学ぶ必然性のある学習との出合いを実現するための単元ゴールを明確にした単元構想 ・児童の主体性の向上を目指した、自己の学び方を選択できる学習計画（ICT を活用した個別最適な学び） ・学校図書館の活用（総合的な学習との関連図書の整備・子どもの声の反映） ②　「複式授業スタイル」の確立 ・学習リーダーを中心とした複式授業の展開…デジタル機器を活用しながらの学習課題の解決等、 ・間接指導の充実と教師のファシリテート力の向上…協働的な学び・学習の手引きの工夫 （２）読解力向上に向けての授業作り　個別最適な学び・授業づくりワークシート ・本時の問題を正しくつかませる。文章で書かれている事を絵や図等で表現させる。・新しく学んだ用語を使って振り返る。 ・自分の学習を調整し、粘り強く取り組む。リーディングスキルノート （３）小中一貫教育推進による自己有用感の醸成 ①学習・生活習慣の確立　・君田スタンダードの推進・中学校試験期間とあわせた家庭学習週間の実施 ②小中一貫の学びの連続性による教育内容の充実…小中合同研修会での授業公開
検証の指標と達成目標	○テスト等の結果 ・学期末テスト（国語・算数）において、全国平均以上の児童の割合 80%以上 ・三次市学力到達度検査において、「評定 1」の児童の割合 20%以下 ○児童アンケート ・「自分の意見と比べながら最後まで人の話を聞き、自分の考えをもっている」80%以上 ・「授業中、友達の考えを大切にし、お互いに協力しながら課題の解決にとりくんでいる」80%以上 ○職員アンケート ・「複式授業スタイルの確立をめざし、授業改善、ICT の活用に取り組んだ」80%以上 ○外部アンケート ・「子どもは学力が付いている」80%以上 ・「学校は子どもに学力をつけるために授業の工夫を行っている」80%以上